



BE THE INSPIRATION RI 会長 バリー・ラシン

2018-'19 Weekly Report

2018/12/5

クラブ会長テーマ 進化の足跡を残そう

第 2389 回例会報告

日 時：平成 30 年 11 月 28 日（水）

会 場：例会場

司 会：S A A

開会点鐘

齊 唱：ロータリーソング「奉仕の理想」

お客様の紹介

佐伯 元行様 国立あおいとり保育園理事長

会長報告

本日はありません。

幹事報告

●地区よりガバナーノミニー・デジグネート確定宣言
(2021 - 22 年度ガバナー)

三浦眞一氏 東京八王子西 RC

●12 月のロータリーレートは 1 ドル 112 円です

委員長報告

●吉野ロータリー情報委員長 12 月 5 日 18 時より、入会 2 年以内の会員対象の新会員セミナーを行います。

参加された方はメイクアップ扱いとなります。是非ご出席ください。

●小澤谷守指名委員長 第 2 回指名委員会を例会後に開催します。委員の方は出席をお願いします。今回は 2021-22 年度の会長を指名する会です。

ニコニコBOX

二階堂親睦活動委員



▲台風 24 号で倒れた大学通りの桜 7 号があった場所に、当クラブの創立 50 周年記念植樹をすることになり、現在抜根作業中。

●喜連元昭会長 佐伯元行先生のご来訪歓迎致します。蝶の研究家としては本業をはるかに越えたこの分野の第一人者と聞いており、お話を楽しみにしております。

●小澤崇文幹事 佐伯先生、御来会を歓迎します。夜の蝶ではなく昼の蝶のお話、楽しみです。

●小澤孝造会員・小澤谷守会員 佐伯元行 国立あおいとり保育園理事長さんの卓話、楽しみにしておりました。お仕事とはまったく違うお話ですが、宜しく願いいたします。

●小川会員 いつも社協の理事会ではお世話になっております。又本日は卓話の講師でお越し頂きありがとうございます。蝶の話ということで趣味の広さに驚いています。ゆっくり拝聴させていただきます。

●杉田会員・岡本正伸会員 佐伯元行あおいとり保育園理事長の御来訪を歓迎しニコニコします。蝶のお話し楽しみに拝聴させていただきます。

●佐伯会員 本日の卓話講師の佐伯元行さんは、谷保流にいういわゆる同じ“お組合”で先祖代々一緒に地域

Rotary



RI 第 2750 地区 多摩中グループ

東京国立ロータリークラブ

会長 喜連 元昭

幹事 小澤 崇文

例会日：毎週水曜日

例会場：谷保天満宮社務所 2 階 東京都国立市谷保 5209

事務所：東京都国立市谷保 5234-1 TEL:042-575-0770 FAX:042-572-8666

E-MAIL：kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp WEB：http://kunitachi-rc.com/

会報委員：岡本 貞雄・平川 貴浩・遠藤 直孝・千葉 伸也

で暮らしてきました。蝶のお話、楽しみにしております。

●小沢国寛会員 少しずつ慣れて参りました！

●プログラム委員会（遠藤直孝会員） 本日の卓話、佐伯元行さんの「日本の蝶の魅力と撮影」とても楽しみにしています。心して拝聴させていただきます。

*ニコニコBOX 合計 27,000 円 累計 1,004,000 円

出席報告

近藤出席奨励委員

11月21日 在籍51名中 出席42名

前々回(11月14日) 出席率 97.91%

閉会点鐘

喜連元昭会長



「日本の蝶の魅力と撮影」



国立あおいとり保育園理事長 佐伯元行氏

■講師の紹介

遠藤直孝プログラム委員長

佐伯元行さんは1959年に国立でお生まれになり、法政大学をご卒業後にオリンパス精機に入社、そののち国立あゆみ保育園に勤務され、現在は社会福祉法人あゆみ会 国立あおいとり保育園の理事長に就任されております。昆虫、特に蝶に関してすごい方で、日本昆虫学会会員、NPO 法人日本チョウ類保全協会会員等を務められています。佐伯さんの写真集「蝶の飛翔」をお持ちいただきました。興味のある方は購入をしてください。

■日本の蝶の魅力と撮影

佐伯元行

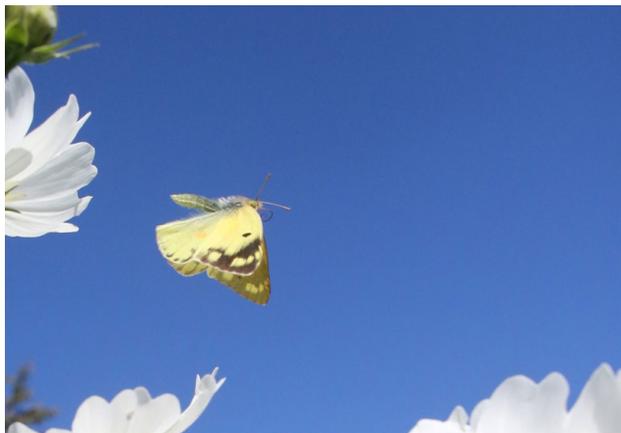
世界に動物は約100万種類、そのうち昆虫は75万種類、更にそのうち蝶と蛾の鱗翅目が14万種、うち蝶が1万6千種いるとされます。日本の蝶は土着しているもので240種、蛾は4000種以上とされています。国立市では現在45種前後の蝶が生息していると考えられます。

蝶と蛾の違いとして夜活動するのが蛾とか、羽を閉じて止まるのが蝶とか色々言われますが、いずれも例外があります。一番わかりやすい見分けは触覚の先端で、先太の棍棒状が蝶、先細または変わらない太さのが蛾となります。

虫を趣味とする有名人はやくみつる氏とか寺門ジモン氏とかたくさんいますが、蝶屋では故鳩山邦夫文部大臣でしょうか。採集する人・飼育する人・撮影する人と様々です。

蝶は幼虫時代、植物を食べるものが大部分ですが、ゴイシジミのようにアブラムシの蜜やそのものを食べるもの、アリの巣に運ばれ口移して餌をもらうクロシジミやキマダラルリツバメ、アリの幼虫を食べて育つゴマシジミのようなものもあります。

蛹の形態も面白く、シロモンクロシジミのような人面蛹、ジャコウアゲハのように播州皿屋敷のお菊に似た蛹、オオゴマダラのような金ピカ蛹もあります。



▲ モンキチョウ

メスグロヒョウモンやメスアカムラサキはオスメスが、サカハチチョウやアカマダラは春型夏型が別種と思われるほど違う外見です。また毒成分を持つベニモンアゲハに外見を似せて身を守る、シロオビアゲハのメスのようなものもいます。

アサギマダラは季節によって移動し、マーキングによって山形蔵王から与那国島まで2500km移動した記録が出ました。

筆者はこうした生態を最近技術発展の著しいデジカメによって、主に飛翔場面の撮影を行っています。最近出版もしましたが、これらを通じ蝶の暮らす自然と人間の共生を考える一助になれば幸いです。



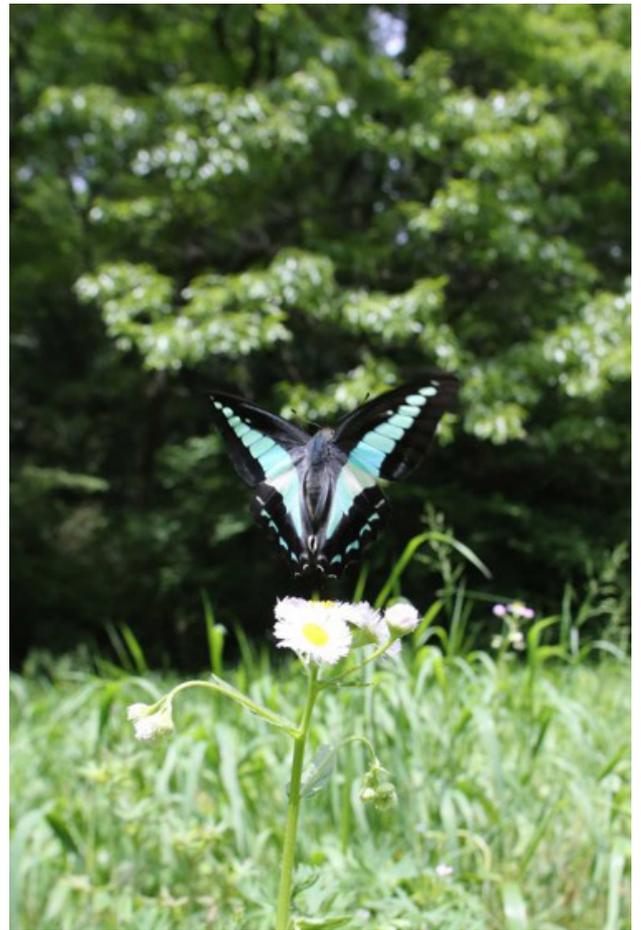
▲ オオゴマダラ



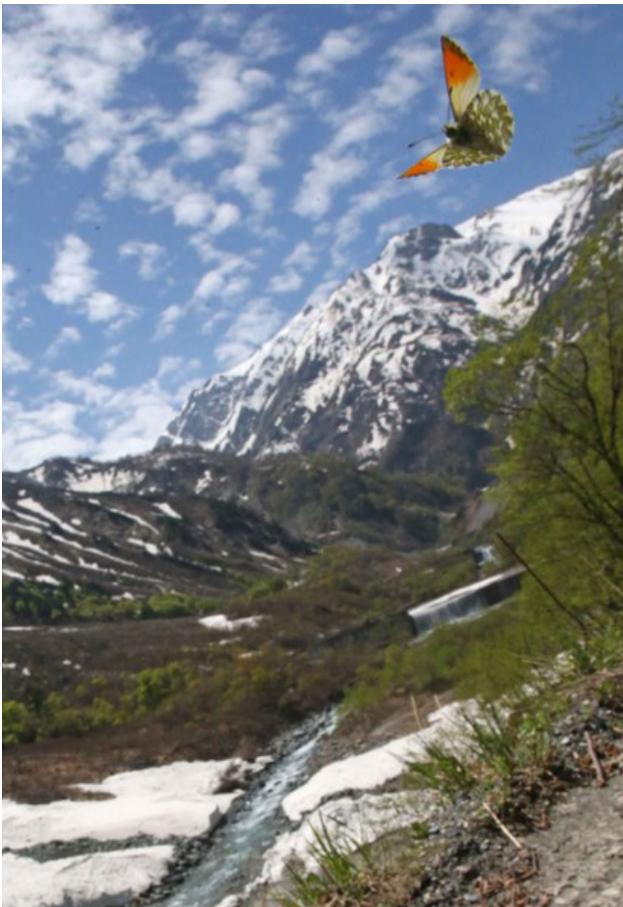
▲ オオゴマダラ蛹・幼虫(前蛹).



▲ キアゲハ



▲ アオスジアゲハ



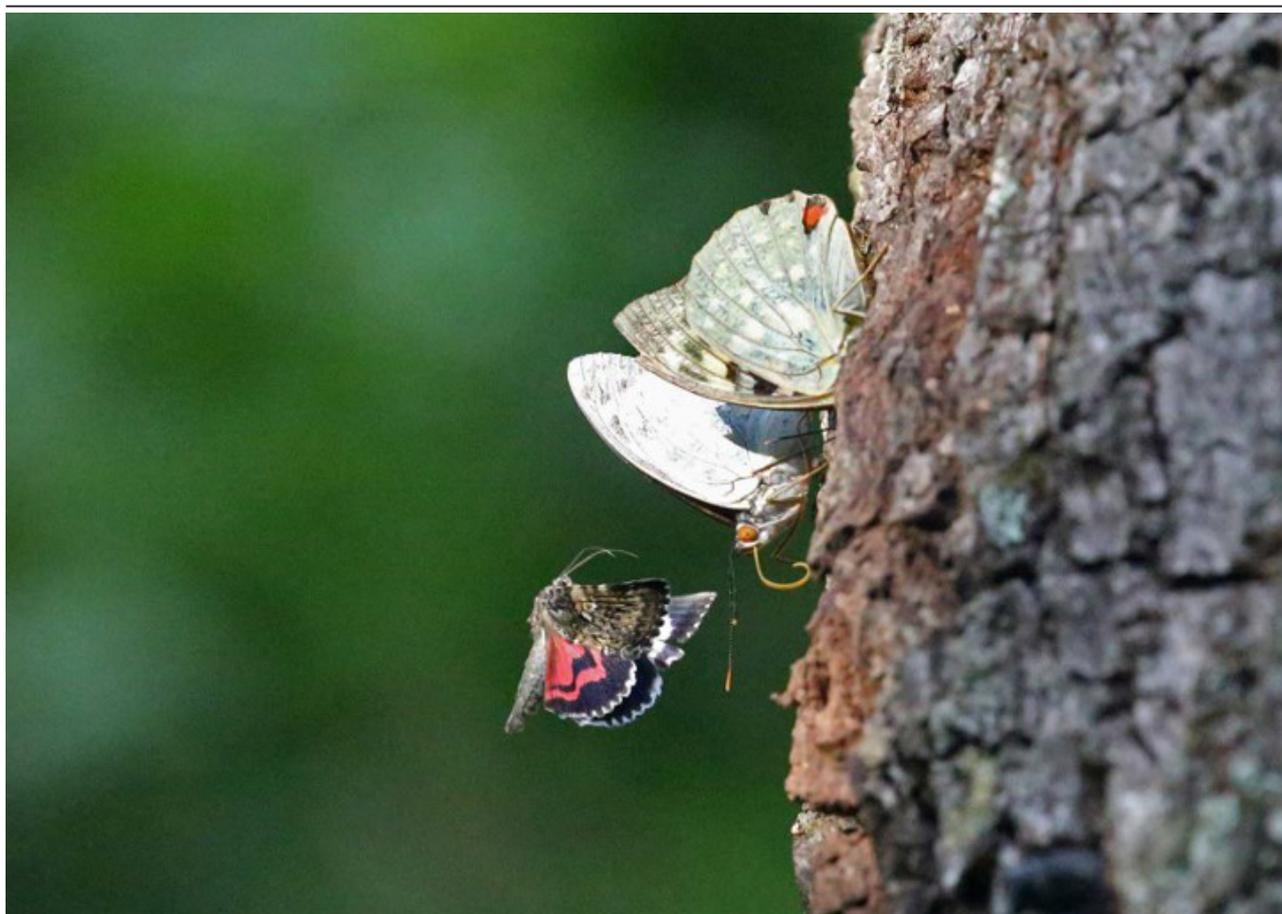
▲ クロマツマキチョウ



▲ クロアゲハ



▲ ベニモンアゲハ



▲ ベニシタバ・オオムラサキ



▲ マルパネリマダラ



▲ キチョウ



▲ ゴマシジミ